

2023年10月5日

報道関係 各位

住友不動産株式会社



GOOD DESIGN
AWARD 2023

「グッドデザイン賞」21年連続受賞

戸建住宅「J・アーバンⅢ 西新井」「J・レジデンス 明石」

集合住宅「ラ・トゥール大阪梅田／梅田ガーデンレジデンス」

「シティハウス池袋」

住友不動産株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:仁島 浩順)は、下記の4物件が公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2023年度グッドデザイン賞」を受賞いたしましたのでお知らせいたします。

当社は、2003年度に泉ガーデンタワー、泉ガーデン(公共空間)、J・アーバン(駒沢)にてグッドデザイン賞を初受賞して以来、21年連続での受賞となります。



〈ラ・トゥール大阪梅田／梅田ガーデンレジデンス 外観〉

2023年度 受賞物件一覧

- 1.集合住宅「ラ・トゥール大阪梅田／梅田ガーデンレジデンス」／大阪府大阪市北区
小さな路地を大きく広げ、街区を繋ぐ並木道
- 2.集合住宅「シティハウス池袋」／東京都豊島区
地域を育む街の軒下
- 3.戸建住宅「J・アーバンⅢ 西新井」／東京都足立区
「間」で住まいを開く
- 4.戸建住宅「J・レジデンス 明石」／兵庫県明石市
住み継がれる家

※過去の受賞物件は当社の公式ページよりご確認ください。【URL】https://www.sumitomo-rd.co.jp/good_design/

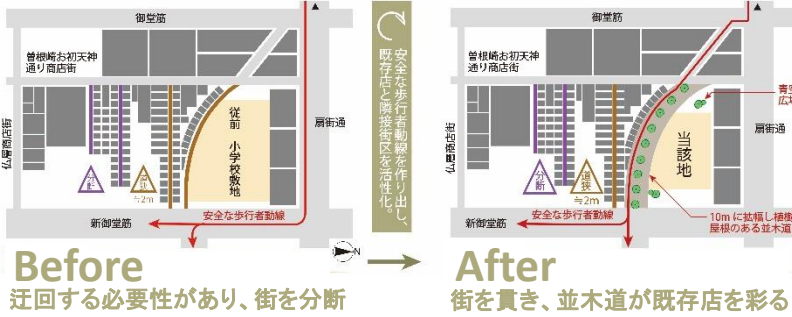
1. ラ・トゥール大阪梅田(賃貸住宅)／ 梅田ガーデンレジデンス(分譲住宅)

建築(中～大規模集合・共同住宅)受賞

小さな路地を大きく広げ、街区を繋ぐ並木道

本物件は、高級賃貸マンション「ラ・トゥール大阪梅田」、分譲マンション「梅田ガーデンレジデンス」、ホテル「ヴィラフォンテーヌ グランド 大阪梅田」、商業施設など、多様な都市機能を有する超高層複合再開発タワーです。(街区名称:梅田ガーデン)大阪駅至近の旧大阪北小学校跡地に建設された本物件は、地上56階、高さ191m、延床面積約10万8,000㎡の規模を誇ります。

開発に伴い、狭い路地を一方後退で拡幅し「並木道」を設けることで、回遊性を高めて沿道店舗の活性化を目指すとともに、多様なイベントを想定し解放感のある「青空広場」を計画しました。木漏れ日の落ちる並木道は街の景観に寄与し、賑わいを創出。従来の町並みとも親和性が高く、高い評価を得ました。また、従前建物のファサードデザインを引き継ぎ、親しみ湧く「地域のシンボル」となる建物を目指しました。



「日常的に集う場所」の役割を引き継ぐ

物件内には従前の小学校が担ってきた「日常的に集う場所」として既存の面影と機能を引き継ぎ、地域集会所と大型防災倉庫を計画。

日常生活の場を地域避難所とすることで、地域貢献を果たしています。

《審査員コメント》

以前は小学校だった敷地面積6,837.63㎡ものスケール、JR大阪駅近くの都心部で、歴史のある「お初天神商店街」などが路地状に展開し活気がある。そのようなロケーションの広大な敷地を活かした複合高層建築である。1階は商店街に面することから店舗とし、外壁をセットバック、ピロティ空間とし、緑豊かな歩道を計画。2階は日常時、会議室、コミュニティセンター、キッズルームなどのシェアスペースを配し、非常時の防災倉庫も設置するなど地域の拠点となる優れた計画である。3階:住宅用駐輪場、4～8階:ホテル、9～39階:分譲住宅フロア、40～56階:賃貸住宅フロアという機能構成で、4階からはさらに外壁をセットバックさせ、周辺環境への圧迫感を軽減し、基壇部は以前あった小学校と高さを合わせ、校舎のファサードも踏襲する意識を持って取り組んだことは大変素晴らしい姿勢である。今後の展開が期待されることである。

受賞物件 概要

所在地	大阪府大阪市北区	戸数	ラ・トゥール大阪梅田(賃貸住宅) 134戸／ 梅田ガーデンレジデンス(分譲住宅) 584戸
階数	地上56階、地下1階 (1～3階:店舗・エントランス・交流施設 他／ 4～8階:ホテル／9～39階:分譲住宅／ 40～56階:賃貸住宅)	構造種別	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
		竣工	2022年3月

2. シティハウス池袋 地域を育む街の軒下

建築(中～大規模集合・共同住宅)受賞

敷地境界を曖昧にした軒先で「立ち話から生まれる」地域コミュニティ

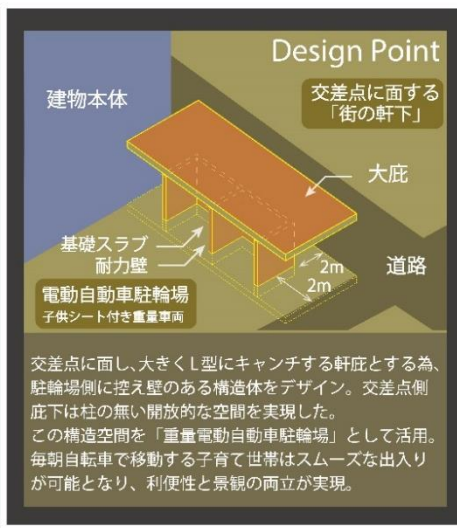
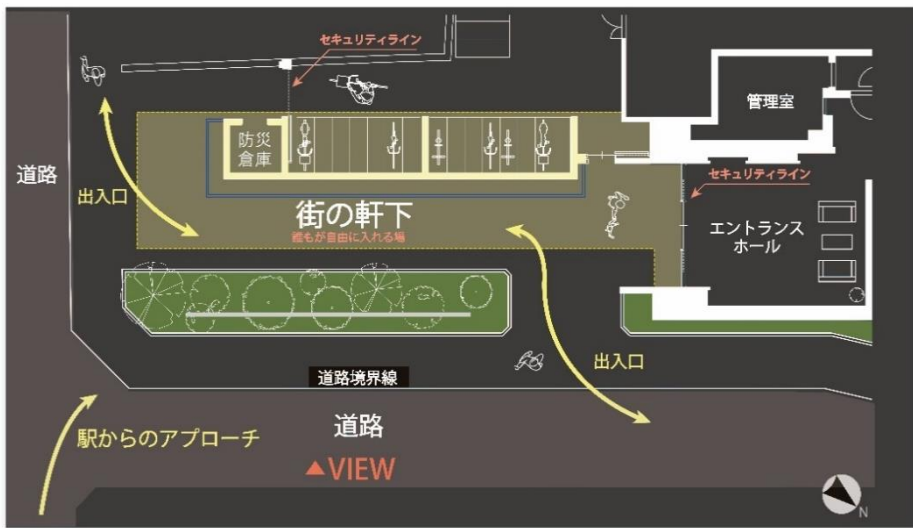
都市部の集合住宅は地域コミュニティに入るきっかけが少なく、孤立する事が近年の社会問題です。この問題を解決するため、自然と地域コミュニティに入れる場を生み出すことを目指しました。

着目したのは保育園の行き帰りなど、雨や陽射しを避ける「日常の中でふと足を止める瞬間」です。



屋外でも快適な環境を演出することができる「庇」

半外空間を屋外に表出させ、街をほのかに照らす行灯のような「庇」は、木質感の高い素材を使用し、温かく繊細な意匠を凝らしています。集合住宅の利点である余白を集約し、コミュニティ・ベネフィットにより生み出した「街の軒下」として地域に開放することで、地域住民とマンション住民の「交流の架け橋」となる、居心地の良い場となるようデザインしました。



《審査員コメント》

東京都豊島区の中低層の建築が建ち並ぶ住宅地に、敷地面積1,656.47㎡と周辺より大きな敷地で建物を15階と高層にし、92戸の住戸を配した高層集合住宅である。道を挟んだ向かい側には2階建ての保育園があり、近接するように建物を建ててしまうと保育園の園庭に光が入らないので、建物を高層とし住戸数を確保しながら道からセットバックし光の入るボイド空間を確保している。そこに道路と並行に開かれた深く長い平屋の軒下空間を計画し、機能としては駐輪場と住戸玄関へ至るアプローチ空間として、歩道と繋がるオープンスペースとなって周辺環境の向上に貢献している素晴らしい計画である。平屋の駐輪場兼アプローチ空間は歩道に沿うように長く建物の高さを低く抑えることで、周辺への圧迫感を軽減し、水平に広がる自由な趣の場となっている。集合住宅開発の利点である「余白」を巧みに集約し、住人や周辺の人々に貢献する計画は街を良くする優れた理念で、今後の展開が期待される所である。

受賞物件 概要

所在地	東京都豊島区	構造種別	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
階数	地上15階	竣工	2021年12月
戸数	92戸(非分譲住戸5戸を含む)		

3. J・アーバンⅢ 西新井

建築(戸建て住宅～小規模集合・共同住宅)受賞

「間」で住まいを開く

住宅密集地では近隣住戸との間隔が十分に取れず、居住者のプライバシーを守るために閉鎖的な住宅になりがちです。また、閉じた住宅では採光や通風が悪くなり、快適さの面で妥協せざるを得ない状況です。

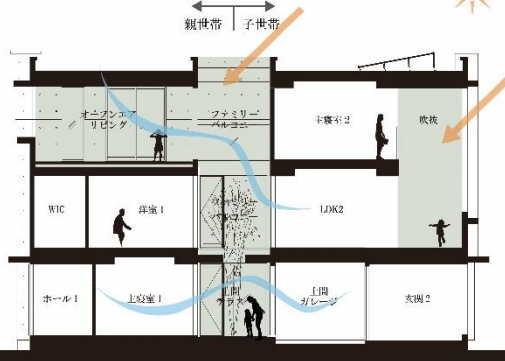
かつての日本の住まいには、縁側や土間のような内と外を取り持つ「間」が存在していました。失われた「間」を取り戻すことで、街と人とを分断せず穏やかにつなぎながら、都市型住宅の問題を解決し、広がりのある関係性が生まれると考えました。



<外観>



<2Fオープンエアリビング>



親世帯 子世帯

01. 家と街との「間」

吹抜けに設けた大開口は、歩行者と住まい手の視線が交差しない設計。視線にさらされるストレスから解放され、開放感ある空間となっている。

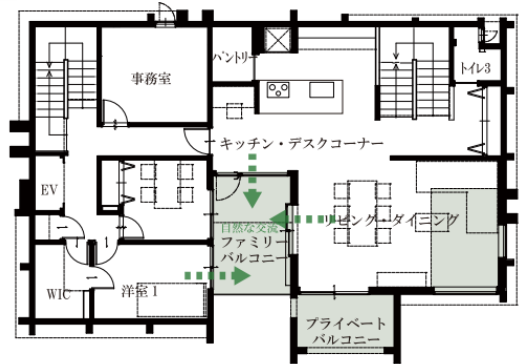
02. 内と外との「間」

メッシュスクリーンで曖昧に仕切り、中間領域を創造。風は外部からの視線を遮りつつ、風や光を内部に呼び込む。内から外へは視線が抜ける。

03. 人と人の「間」

バルコニーを介して2つの世帯をゆるやかにつなげた。あえて中間領域を共有スペースとすることで、互いのプライバシーを守りつつ、自然な交流が生まれる。

<断面図>



<2F平面図>



2Fリビング・ダイニング

<<審査員コメント>>

2世帯住宅の間に半外部空間を挿入することで、2世帯を緩やかに繋いでいる点が評価された。共有の半外部空間に対して両世帯が開かれることで、プライバシーを守りながらも街に対して閉鎖的でない住宅となっている。半外部空間を通じてお互いの気配を感じられるので、交流も生まれやすいであろう。外へ直接開かれる開口部にはメッシュスクリーンを設け、プライバシーを守りながら柔らかく街の気配とを繋げている点も良い。オープンエアリビングも適度に守られた半外部空間として魅力的である。

受賞物件 概要

所在地	東京都足立区
階数	地上3階
構造種別	木造(枠組壁工法)

4. J・レジデンス 明石

住み継がれる家

深い軒による美しい陰影と水平ラインがつくる、シャープで洗練された外観が特徴です。

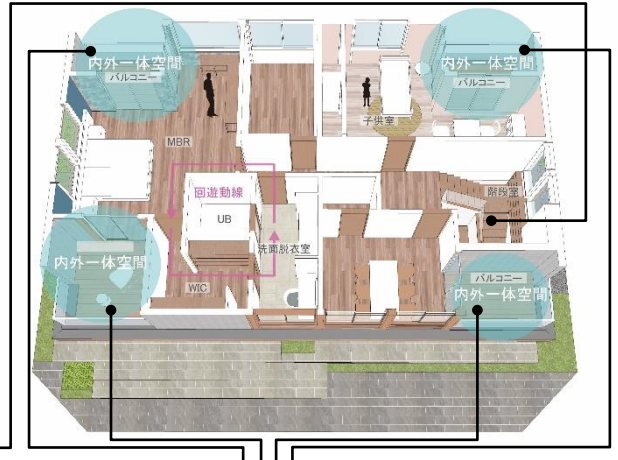
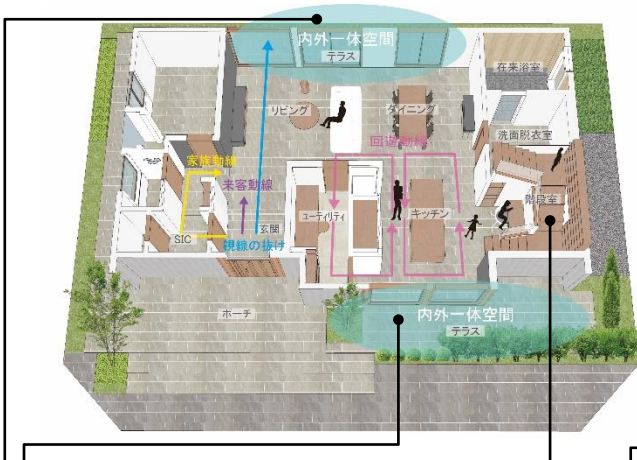
天然木が年月と共に味わいを増していき、飽きることなく住み継がれる住まいとなります。



建築(戸建て住宅～小規模集合・共同住宅)受賞



各所に設けた「間」が内と外との境界を曖昧にし、空間を延長して広々と感じさせます。一義的でない空間となることで生まれる豊かさは、日本特有の美です。上質な住まいを提供することで、スクラップアンドビルドを繰り返すのではなくストック活用される住宅を普及させたいと考えました。



01. 内を外に延長



【内を外に延長】
建物の正面と海側にそれぞれテラスを設け、人と人がふれ合いながら自然を享受できる緑のような空間とした。
床と同じレベルで続くテラスは屋内の延長として使用でき、外気を感じながら過ごせる心地良い中間領域となっている。

02. 空間を拡張



【LDK空間の延長】
単なる機能としての階段ではなく、吹抜を含めた空間づくりをしたことでLDKが階段室まで余す所なく延長され広々と感じる。

03. 建物の角を開放



【深い軒の出による「間」】
建物の角を開放したことによって深い軒が生まれ、内と外との中間領域＝「間」を造り出した。「間」が内外の境目をほかし風の流れや四季の移りを取り込む。一義的でない空間となることで空間に余白と豊かさが生まれた。

《審査員コメント》

2階の四隅にテラスを、1階の前後にポーチを設けることで、家のどこにいても外部空間がたっぷり取り込まれる空間の骨格となっている。外観としては、木材で仕上げた庇が大きく張り出し、日本の木の家の伝統的空間性を感じさせるデザインとなっている。基本はシンプルな構成だが、階段室に本棚を設置し、空間も一体的に扱うなど、丁寧に設計をすることで多様な場所性・領域性がもたらされている。

受賞物件 概要

所在地	兵庫県明石市
階数	地上2階
構造種別	木造(WP工法)

SHIROKANE The SKY(白金ザ・スカイ)

伝統・文化を継承し、街元来の力をアップデートさせる再開発

本プロジェクトは、「安心して快適に暮らし続けられる、やすらぎとゆとりのあるまち」の実現を目標にした約1.7haに及ぶ区域の再開発事業です。都市構造上の課題を抱えた区域を街区再編し、道路等基盤施設の整備・拡充、古川沿い歩行者通路等の整備を行い、住宅・商業・工場・病院等の多機能が融合した魅力ある複合市街地を創出しました。※本物件は、東京建物株式会社、株式会社長谷工不動産、住友不動産株式会社、野村不動産株式会社、三井不動産レジデンシャル株式会社の共同受賞です。

■デザインのポイント

①住宅・病院・工場といった既存都市機能の維持・更新を図るとともに、街区再編を行う都市環境計画。

②古川沿いの冠水対策と緑豊かな歩行者空間整備により、防災機能改善と賑わいと憩いのオープンスペース創出。

③周辺地域への圧迫感の軽減に配慮した配棟と街並みへの調和、「白金エリアの新たな顔」となる都市景観。



《審査員コメント》

東京都港区白金、8車線程の道路の415号線、416号線の交差点、角地で416号線の上には首都高速が通り、高層建築が建ち並ぶ。そうした立地的に特色のある地域に、住宅・商業・工場・病院等を配した複合高層建築である。平面、断面的な構成は、高さの違う3棟を分棟で配置しながら、都市的な視線の抜けを確保し、低層レベルのボリュームは繋げ、ピロティやガラスの庇などで歩道と境界なく連続させている。都市スケールからヒューマンスケールまでの各段階を総合的にデザインした大変優れた計画である。既存機能である病院や町工場、戸建て住宅や集合住宅等も含めて計画地内に計画することを前提に行政との協議、権利者との対話を繰り返し、古川の浸水対策など都市部の機能向上に貢献している。今後もこの地域をより良くしていく姿勢が期待される場所である。

受賞物件 概要

所在地	東京都港区	構造種別	鉄筋コンクリート造
階数	地上45階、地下1階	竣工	2023年2月
戸数	1,247戸(非分譲住戸477戸含む)		